
先日、福岡市博物館で開催中（5月22日まで）の『大北斎展』に行ってきました。北斎や浮世絵の展覧会には以前何度か足を運んだことはありましたが、今回あらためて北斎のすごさを知ることが出来ました。「富嶽三十六景」の中の作品で大胆な構図や色彩の浮世絵が有名ですが、90歳と長寿で数多くの作品を手がけています。版画の錦絵はもちろん、版本の読本挿絵、絵手本（構図、画材集）など多くの種類にわたっています。現代風に言うと出版界の天才イラストレーター・写真家であり、漫画やアニメの先駆者でもあります。パンフレットには「誰にも負けない好奇心と向上心を武器に、古今東西の絵画を研究し、寝食を忘れて画きに画き、努力に努力を積み重ねた北斎は、知れば知るほどおもしろく、奇妙奇天烈で奇想天外な人でした。30回も名前を変え、90回も引っ越しをし、弟子は200人、収入は多かったはずなのにいつも貧乏・・・」とあります。現在、世界に注目される日本の大衆文化は、江戸時代末期から発展を続けたものが多く、北斎も重要な役割を果たしてこられたと思えます。また、福岡市美術館では『ハンブルク浮世絵コレクション展』が5月8日まで開催中です。こちらは、春信、歌麿、写楽、広重などの浮世絵作品を楽しむことができます。北斎の作品も少なくないです。ほぼ同じ時期の開催はありがたいことです。

では、北斎から経営上学ぶべき点を考えて見ましょう。よく中小零細業は専門性を深めることで生き残るべきと言われます。たしかにそうでしょう。しかし、それだけでは十分とは言えません。世の中は絶えず変化しています。北斎は幼少から絵を描くことが好きだったそうです。そして貸本屋の小僧、版木掘りを経て、当時有名な浮世絵師に入門（19歳）、派の中堅絵師として活躍、師匠が亡くなった派を離れ（35歳）、全く作風が異なる琳派に学んだのち独立します。45歳ごろから読本挿絵と肉筆画。寛政の改革による出版統制の時代、道徳的で教訓的な読本が流行ると、この新分野に参入、10年で190冊余りを手がけたそうです。50歳過ぎから葛飾一派の画風を広く世に知らせるために絵手本制作に心血を注ぎます。今日の誰でも知っている風景版画家としての大作（錦絵）は71歳からの4年間に集中。80歳過ぎからは肉筆画が中心となったそうです。北斎はこのように自分の持つ才能・能力を生かしつつ、絶えず努力を続け、世の中の変化や要望に積極的に応え、結果的に幅広い分野の創作をおこなっていきました。私たちは、事業において短期的な成功（実際ほとんど不可能です）を考えるのではなく、長期的視点に立ち自分の一番得意な分野で努力を続け、たえず変革し、生き残っていくことが望めます。